

## 京都府立植物園整備計画の見直しを求める会 ニュース

## なからぎの森

No.2

2021.5.13

発行元：京都府立植物園整備計画の見直しを求める会（通称：なからぎの森の会）

〒606-0851 京都市左京区下鴨梅ノ木町 62-2

「京都府立植物園の整備計画の見直しを求めるアピール」  
を發表しました。（裏面）

以下の方々からこのアピールへの賛同が  
呼びかけられました（敬称略）。

中村幸男（元京都府立植物園第8代園長）

府民・市民の将来に誇れる財産です。

150～200周年に向けて守って下さい。府立植物園を！

松谷茂（京都府立植物園名誉園長（第9代園長））

京都府立植物園は、公園でも庭園でもなくホンマモンの植物園です。

100年以上も前、この地に日本一の植物園を構想した第十代京都府知事  
大森鍾一氏、莫大な資金を寄付いただいた三井家同族会ら先人たちの熱き  
思いを、ないがしろにするような計画は必要ありません。歴史と伝統を尊重  
しましょう。整備計画の見直しを求めます。

金子明雄（元京都府立植物園第10代園長、元日本植物園協会副会長）

先進国といわれる日本において、植物園でこのような整備が行われることは、  
世界の植物園では信じられないことである。公園をつくりたいのなら、植物園  
とは別につくればいだけのことである。公園は1年でつくれるが、植物園は  
「生きた植物の博物館」であり、百年、二百年と要し、未完の施設である。



（観覧温室は現地で改修を。）

署名にご協力くださ  
い。ネット署名も始め  
ました。こちらから↓



以下の方々にも賛同呼びかけ人になっていただきました

明石太郎（ドキュメンタリーカメラマン）・赤染益輝（左京区在住47年）・朝日稔（立命館大学名誉教授）・  
あざみ祥子（元葵学区民生児童協議会会長）・蒔立明（弁護士）・鯉坂 真（関西大学名誉教授）・鯉坂学（同志  
社大学名誉教授）・池村奈津子（平和のテーブル・京都）・井崎敦子（井崎敦子と草の根プロジェクト）・  
岩崎信彦（神戸大学名誉教授）・小川真三（葵学区社会福祉協議会会長）・片方信也（日本福祉大学名誉教授）・  
川口慈郎（川口美術代表）・北川政幸（生徒の理科研究所理事）・幸 良（京都文化団体連絡協議会会長）・  
河野健男（同志社女子大学名誉教授）・小菅正夫（北海道大学客員教授 元旭川市旭山動物園長）・小林充（医  
師）・佐々木佳継（京都・水と緑をまもる連絡会）・貞兼綾子（NGO代表）・清水正（日本自然保護協会自然観  
察指導員）・清水幸代（LANDSCAPE代表）・下村孝（京都府立大学名誉教授）・

【2面に続く】

【呼びかけ人つづき】鈴木富美（鈴木診療所所長）・高原正興（京都府立大学名誉教授）・竹門康弘（京都大学防災研究所准教授）・田末利治（天然記念物「みぞろがいけ」保全に関心）・田邊利幸（同志社中・高教諭）・田邊晃生（元京都大学）・土岐直彦（ジャーナリスト）・中尾牧（京都母親連絡会会長）・中尾正人（松ヶ崎の住環境を考える会）・中島晃（弁護士）・中津めぐみ（糺の森未来の会）・中林浩（都市計画家）・西川忠樹（元NPO自然観察指導員京都連絡会代表（現顧問））・西原昭二郎（前京都府立植物園副園長）・久永雅敏（建築家）・福山和人（弁護士）・松井芳郎（名古屋大学名誉教授）・満田久義（佛教大学名誉教授）・室崎益輝（兵庫県立大学教授）・森和男（東アジア野性植物研究会主宰）（五十音順・敬称略・全46名）

## 京都府立植物園の整備計画の見直しを求めるアピール

京都府立植物園は京都の住民にとってなくてはならない文化的、学術的施設です。百年近くにわたり老若男女多くの人々がここで、憩い、語り、学んできました。5万本超の樹々に囲まれ、比叡山と北山を借景に取り込んだ24ヘクタールの園地は、府と植物園に働く人々に支えられ、幾多の困難を乗り越えて、人々を育み、励ましてきました。

その植物園がいま重大な岐路に立っています。京都府は2020年12月に「北山エリア整備基本計画」を作り、その一環として、植物園を賑わいと遊興の出来る施設に変えようとしています。すなわち、大芝生地（そこは子供らが嬉々として素足で走り回れる伸びやかな空間！）には野外ステージが設置され、イベントで賑わう場所になり、園の境界を削り、外部との出入りをしやすくして、園に隣接して商業施設を並べようというのです。これではどこにでもあるただの緑地公園になってしまうのではないのでしょうか。植物と人間が織りなす静かな空間は消え、野鳥も近寄れない喧噪の場に置き換わっていくのではないのでしょうか。また、しっかりした境界がなくなると、利用者の安全、安心も担保されなくなってしまいます。

こんなことをすれば営々として築かれてきた京都府立植物園というかけがえのない公共財産にとりかえしのつかないダメージを与えてしまうことになるのではないのでしょうか。目先の「もうけ」に走って整備改変するのは後の世代に対しても申し訳が立たない行為になります。

わたしたちは、植物園が今後とも「生きた植物の博物館」として機能するためには、植物園の環境全体の保全が欠かせない基本的条件であると考えます。京都府は、府民に愛されてきたこの類まれな京都府立植物園の歴史、実績、環境をいま一度考え、拙速な整備計画を再検討するよう、わたしたちは要望します。

2021年4月22日

京都府立植物園整備計画の見直しを求める会（別称「なからぎの森の会」）

- 5月21日(金) 京都府に第一次署名を提出し、記者会見を行ないます。
- 5月22日(土) 午後2時より、署名運動拡散集会を北大路橋東詰で開催します。雨天順延・小雨決行。署名用紙が必要な方も取りにおいでください。
- 財政支援もお願いします。このニュースの発行元・吉澤喜代一まで現金書留でお送りください。